

磯



銚子散歩を楽しむ



海の生き物の世界

「」 ロナ禍でお出かけをためらいがちな今年の夏休み。ただ、気分転換にもなる自宅付近での散歩や軽い運動は健康な日常生活を送るうえでも必要です。

ふだん何気なく過ごしている身近な場所でも、想像力を働かせたり少し視点を変えたりするだけで、楽しみは無限に広がります。そこで提案するのが「銚子散歩を楽しむ」。今回は海の生き物を通

して銚子の大地をテーマパーク代わりに楽しむポイントをお教えします。

不思議な生き物と出会う

銚子の海岸は「磯」と「砂浜」の2つのタイプがあります。磯も砂浜も両方あるのは近隣のまちの中でも銚子だけ。そこにはそれぞれの環境に適応した不思議な生き物たちが暮らしています。

磯の生物ミニ図鑑

アメフラシ



体長は15cmほどの柔らかくうねうねした生き物。貝の仲間ですが、貝殻は進化の過程でなくなりました。刺激を与えると雨雲のような紫の汁を出すのがその名の由来。

写真提供 慶応義塾大学准教授 糟谷大河氏

ごっこつした岩場がある浅瀬が磯です。銚子には、古い時代の地層が顔を出しています。そんな古く硬い岩のある場所には磯ができます。利根川が陸の栄養たっぷりの水を運んでくる銚子の磯は生き物の宝庫です。



川原俊久さん 房州文字さん 宮内敏さん

ウメボシイソギンチャク



岩場に張り付いて赤い梅干しに似たイソギンチャクの仲間です。潮が引いているときは触手をすぼめ、梅干しのように丸まっています。

ダイダイイソカイメン



鮮やかなオレンジ色で岩場に張り付いています。表面には噴火口のような穴がたくさん開いていて海水や排泄物を外に出します。柔らかいスポンジのような感触です。

これなーんだ？



岩上の黄色のなぞの細長いものはアメフラシの卵です。そうめんに似ているので「海そうめん」と呼ばれることも。

写真提供 慶応義塾大学准教授 糟谷大河氏

⚠️【注意】

- ▶子どもだけで行かないこと。必ずライフジャケットを身につけましょう
- ▶漁業権がある場所もあります。注意の看板があったら必ず従いましょう
- ▶海にはカツオノエボシなど毒をもった生き物もいます。特に磯に入るときは長靴で。知らない生き物には絶対に触らないようにしましょう

▶カツオノエボシ。打ち上げられた死体も危険。



案内人

文化財・ジオパーク室 主任学芸員 岩本直哉

銚子ジオパーク市民の会の皆さん 犬吠テラステラス1階の銚子ジオパークビジターセンターでガイドとしても活躍中。10時～16時

